

# 要 望 書

水害の頻発・激甚化に対応する  
治水対策の促進について

～ 大鞘川河川改修事業の早期完成 ～



(令和7年8月11日大雨時の県道八代鏡宇土線の道路冠水状況)

令和 7 年 1 1 月  
熊 本 県 八 代 市

## 河川改修の早期完成に関する要望書

本市の北部を東から西に流下する大<sup>おざや</sup>鞆川は、八代海に注ぐ流域面積約35km<sup>2</sup>の二級河川です。この流域は、数次にわたる干拓事業により造成された平野部であり特に江戸期に造成された中流域の千丁・鏡地区は堤防が低く、川幅が狭いため豪雨により家屋の浸水被害、道路の冠水、農産物への被害が増加しています。

令和7年8月豪雨においては、11日午前9時に時間最大雨量81mm、6日の降り始めからの累計で598mmの大雨を記録するとともに、継続的な集中豪雨による河川の氾濫により、千丁地区をはじめとする市内全域が、床上1517件、床下1706件（9月11日現在申請数）の甚大な被害が生じ、市民の生命・財産が失われ、大規模な浸水被害が発生しました。

また、本川流域は、いぐさの一大生産地となっておりますが、今回の大雨で、いぐさ織り機や収穫したばかりの原草が水に浸かり壊滅的な被害が発生しているため、治水対策が急務となっております。

本川の改修については、熊本県により平成6年度から取り組まれていますが、事業着手から30年が経過しているものの、築堤工事の進捗率は約40%（令和6年度末）の状況にとどまっています。

加えて、連携する排水対策特別事業により整備された排水機場が暫定稼動を強いられ十分な整備効果を発現できない状況となっております。

本川流域は、近くに九州新幹線新八代駅や九州縦貫自動車道八代ICがあり、日常の利便性により人口が増加している地域でもあることから、本川改修の早期完成は、地域のみならず本市の願いとなっております。

つきましては、安心して潤いのある豊かな生活と農業生産力の復活及び永続的な安定を目指すうえで、本川改修の早期完成が不可欠であり、所要額の確保に格別のご高配を賜りますよう要望いたします。また、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」後の「国土強靱化実施中期計画」の中でも、国土強靱化対策に十分な予算を確保していただけるようお願いいたします。

令和7年11月

八代市長 小野 泰輔